

この時の失敗の教訓は、一〇年後、滋賀県大津市で結成された滋賀販労のスローガン、「新聞屋かて人間なんや」となって、見事に結実した。

## 六年間の国会質問を一行も書かなかつた新聞とは

### 販売過当競争を追及した国会質問一覧

一九八〇年

三月五日 衆議院予算委員会第四分科会で瀬崎博義共産党衆議院議員(当時)が初めて、新聞販売の過当競争について質疑。わずか五分間の質問であつたが新聞業界に衝撃が走る。

十一月十一日 参議院商工委員会で市川正一共産党参議院議員も新聞販売過当競争について質問。国会で初めて拡材(景品)の現物がずらりと並ぶ。

一九八一年

三月二日 衆議院予算委員会第四分科会で、再度、瀬崎博義衆議院議員(共)が新聞の販売過当競争について追及。

十一月十九日 参議院商工委員会で、市川正一参議院議員(共)が新聞奨学生問題と違法販売問題を追及。

一九八二年

三月八日 瀬崎博義衆議院議員(共)は、衆議院予算委員会第四分科会で、読売新聞鶴舞販売所(奈良)元店主の北田敬一氏提供の読売新聞社と北田店との一〇年間にわたる取引にかかわる資料にもとずいて、違法販売における発行本社責任を追及。

四月六日 草川昭三衆議院議員(公明党・国民会議)が、衆議院社会労働委員会でABCレポートなどを追及。それまで新聞問題についての国会追及は共産党議員のみだったので発行本社側はアカ攻撃でなんとか逃げきろうとしていたが、公明党まで戦線に参加してきたので、大いに慌てる。

四月二二日 参議院物価問題特別委員会で、市川正一参議院議員(共)が、北田資料を取り上げて、過当競争での本社の責任を追及。

一九八三年

三月八日 草川昭三衆議院議員(公明党・国民会議)が、衆議院予算委員会で、販売正常化、押し紙問題を追及する。

五月 八日 市川正一参議院議員(共)が、参議院商工委員会で販売正常化問題を追及。

一九八四年

三月十二日 衆議院予算委員会第六分科会で、瀬崎博義衆議院議員(共)が、新聞販売にともなう古紙回収について追及

四月 七日 参議院商工委員会で、市川正一参議院議員(共)が、拡販に使われている招待券について追及。

七月二四日 衆議院社会労働委員会で、草川昭三衆議院議員(公明・国民会議)が、販売正常化問題を追及。

一九八五年

(二月二〇日、二回目の販売正常化社告を各紙掲載)

三月 八日 衆議院予算委員会第六分科会で、関山信之衆議院議員(社)が、社会党として、初めて新聞販売問題を取り上げて、追及。

三月二六日 衆議院物価問題特別委員会で草川昭三衆議院議員(公明・国民会議)は、本社の補助金、奨励金まで踏み込んで、販売正常化実現を迫った。

(この質問終了後、草川議員に読売新聞社から、圧力がかかる)

四月十二日 衆議院商工委員会で、木内良明衆議院議員(公明党)が、新聞販売問題をとり上げる。

※木内議員は、質問内容から見て、販売店主の団体である日販協(日本新聞販売協会)サイドからの質問であり、この質問のみ、全販労は一切かかわっていない。以前には木内議員とも接触はあり、新聞問題の国会質問も〇区だったのだが、肝心の質問時は全販労には連絡がなかった。

※瀬崎、市川、草川、関山各議員の質問の基礎資料はすべて全販労が提供した。

※国会議事録については、巻末の資料を参照されたし。

~~新聞販売問題についての国会質問について奇妙なことに気付いた。六年間という長期にわたっているにもかかわらず、あれほど新聞のスクヤンダル報道に熱心な、週刊誌はもちろん総合雑誌も、そしてマスコミ関係の雑誌も、私の知るかぎり一切国会質問を話題にしていない。これはどういうことなのだ。新聞業界紙には国会質問の度に克明に派手に載せられていたことを考えれば、週刊誌、総合雑誌、それに新聞学者、研究者が知らない筈はない。もちろん赤旗、公明新聞にも、当然大きく記事は載っていた。その上、各議員の質問の委員会の記者席は、最初の一九八〇年三月五日の深夜の瀬崎質問以外はいつも一杯だった。しかし全国紙には六年間の国会質問は一行も載らなかった。これは一体何なのだ、~~